その中でも現金が絡むプロセスからの不正・インシデントが増加傾向にあります

タイで実際に起きた不正・インシデント事例

事例【購買プロセス：仕入先からのキックバック、相見積りの不実施】
相見積りを取るルールにはなっているものの、稟議書に添付されている資料はエクセルで作成されており、実際には相見積りを取らずに購買担当者が適当な金額を記載して、担当者が選定したベンダーになるように資料を整えていた。担当者はベンダーからキックバックをもらっていた。

事例【経費プロセス：経費の私的利用】
経費申請を行う際は証票を添付をするルールがあったものの証票自体が偽造されていた。証票はタイ語で書いてあるため、日本人マネジメントは理解ができず、深く確認をすることなく（且つ少額だったため）、承認を行っていた。

事例【現預金管理プロセス：小切手サインの偽造】
小切手の払い出しはマネジメントのサインが必要だが、経理コントローラーがサインを偽造し着服していた。小切手は経理コントローラーが管理をしており、小切手帳上は払い出し件数とも一致し、期末の預金残高とBank Statementも一致しているためマネジメントが気づけなかった。

事例【在庫プロセス：商品、製品の盗難や私的売却、棚卸差異の不一致要因の未検証】
棚卸差異の不一致が生じているが、その差異要因を未検証のまま放置されている。明確な経理ルールもなかったため差額は雑損失等で処理をし、帳簿残高を実残高にあわせる処理が暗黙のルールとして存在していた。その後、不一致の原因は従業員が不正に持ち出して私的に売却していたことが判明。

© 2022. For information, contact Deloitte Tohmatsu Group.